

明治元年〜昭和22年 国家最高機密文書  
平成公開分を収録した待望の完全版

ゆまに  
書房 YUMANI  
SHOBU

▼編集▲

我部政男

山梨学院大学教授

広瀬順皓

駿河台大学教授

国立公文書館所蔵

全124リール・別巻4

マイクロフィルム版 35ミリポジティブリール

公

文

別

録

## 刊行にあたって

近代日本史研究の基礎史料として第一に挙げられるのは、言うまでもなく政府作成の記録類である。現在それらは国立公文書館に所蔵されていて、広く研究者に公開されている。今回ここに刊行を計画したのは、国立公文書館所蔵史料のうち、内閣機密史料とも言うべき「公文別録」である。「公文別録」269冊は、長い間未整理という理由で公開されなかったが、一度公開されるや明治16年の地方巡察使復命書など貴重な史料が次々発見され、学界の注目するところとなったことは周知のことである。

事実「公文別録」には既に活字となった史料以外にも様々な重要史料が隠れているように思われる。たとえば「自明治一五年至同一六年公文別録」中には、「立憲帝政党綱領の件」と題する史料がある。この内容は、明治14年の政変を期に成立した自由党や改進黨に対抗して政府の肝いりで成立した立憲帝政党の綱領草稿である。一政党の綱領草案が政府の機密史料の中に含まれていることは、立憲帝政党の評価に大きな意味があるであろう。

また「公文別録」中の諸史料は本来「公文録」や「太政類典」など正規の編纂物に綴られるべき史料である。従って多くの場合、そこには起案から決裁に至る関連史料が含まれている。そしてその中には、時として、山県有朋や伊藤博文などの未発見の意見書が含まれていることがある。同じ「自明治一五年至同一六年公文別録」には、山県有朋の官報発行に関する建白書が見出せるのである。

今回「公文別録」269冊（簿冊番号1～267）全冊の刊行を企図した理由はここにある。この「公文別録」の刊行によって、新しい日本近代史の新しい地平が切り開かれることを切望する次第である。

### ■国立公文書館所蔵「公文別録」■

明治維新以来の内閣の記録は、「太政類典」や「公文録」、あるいは「公文類聚」「公文雑纂」といった形で編纂されている。いずれも日本近現代史研究には必須の基本史料であり、現在、国立公文書館で閲覧することができる。

この一連の内閣記録の中で、「公文別録」は特異な位置を占めている。

「太政類典」や「公文録」などは、整然とした編纂方針の下に作成されているが、「公文別録」は、その編纂方針があいまいで、編纂に関する史料も全く見あたらないのである。

これの意味するところは重要である。「公文別録」に含まれる史料は、本来「太政類典」や「公文録」や「公文雑纂」などに編綴されるのが順当だが、それが何らかの理由で別録として編綴されているのである。これは、「公文別録」が、人目に触れさせたくない史料を編綴したものであることを推測させる。つまり最高機密史料の綴である可能性が高いということである。それも269冊が残っているのである。

事実ここには、明治16年の「地方巡察使復命書」や同年の「板垣退助遭害一件」、あるいは「福島県下人民暴動一件」「新潟県下頸城自由党逮捕一件」というような自由民権運動関係史料をはじめ、内閣及び各省庁に係わる史料が多く含まれている。

さらに目録をみて行くと、「諸建白書」あるいは「上書建言録」など、明治初期の民衆動向に関する史料も多々みられ、これは、「地方巡察使復命書」とともに、政府が国民の動静を常に気にかけていたことの証左である。

このほか「清国通信始末」「清国機密公信」「琉球廃藩置県処分」「琉球書類」「処藩趣旨書」などは、明治前期の外交関係書類であり、外務省外交史料館所蔵史料を補うものであろう。

このように「公文別録」は、内容が多岐にわたっているものの、その中心をなすものは明治前期の史料であり、研究者の期待に十分沿えるものであることは間違いない。

### ■第Ⅰ期■全31リール

簿冊番号	名称
1～5	太政官 1～5
6～8	太政官 1～3
9～10	機密探偵書 1～2
11	宮内省
17,19～20	内務省 1, 3～4
21～26	大蔵省 1～6
27	陸軍省・海軍省
28	司法省
29	文部省
30～45	農商務省
46～47	工部省
48	官符原案
49	府県
50～51	官吏雑件 1～2
52	官吏選挙慰勞内規
53	諸建白書 1～3
54～56	上書建言録 1～3
57～59	地方巡察使 1～3
60～65	地方巡察使復命書 1～6
66～74	地方巡察使復命書 1～9
75	地方巡察使復命摘要
76～85	巡察記

### ■第Ⅱ期■全36リール

簿冊番号	名称
88～91	琉球廃藩置県処分 1～4
92	琉球書類
93	板垣退助遭害一件
94	福島県人民暴動一件
95	新潟県下頸城自由党逮捕一件
96	清国通信始末
97	清国機密公信
98	処藩趣旨書
99	使清弁理始末
100	探偵書
135～137	未決並びに廃案書類 1～3
140	士族その他勲業資本金貸に関する件
141	軍艦千島衝突事件
142～150	大津事件
151～163	臨時制度整理局書類
164	大正3・4年戦役文官賞査定表
165	内閣
166	内務省
167～169	大蔵省 1～3
170	陸軍省
171～173	海軍省 1～3

年次	リール番号
明治元年～明治10年	001～002
明治15年～明治18年	003
明治15年～明治17年	004
明治15年～明治18年	004
明治15年～明治18年	005
明治15年～明治18年	006～007
明治18年	008
明治16年～明治18年	008
明治15年～明治18年	008
明治15年～明治18年	009～015
明治15年～明治18年	016
明治11年～明治18年	016
明治18年	016
明治15年～明治16年	017～018
明治15年～明治18年	019
明治3年～明治6年	019
明治11年～明治18年	020～021
明治15年～明治16年	022～023
明治16年	024～025
明治16年	026～029
明治16年	029
明治15年～明治16年	030～031

年次	リール番号
明治8年～明治16年	032～035
明治8年	035
明治15年	036
明治15年	037
明治16年	037
明治2年～明治6年	038
明治8年～明治16年	038
明治8年	039
明治8年	039
明治5年～明治8年	039
明治20年～大正4年	040～042
明治19年～明治23年	043
明治26年～明治28年	043
明治24年	044
大正元年	045～049
大正10年	050
明治8年～明治16年	051
明治19年～明治30年	052
明治19年～大正6年	053～055
明治19年～大正7年	056
明治21年～明治39年	057～058

174	農商務省	明治27年～明治42年	059
175	逓信省	明治26年～明治39年	059
176	綱紀肅正に関する件	大正6年～大正11年	060
177	大正3・4年戦役に続く戦役各省行費査定	大正10年	060
178	行政整理に関する書類	大正11年	060
179	衆規測鑑公文年月表	明治元年～明治8年	060
180	陸軍省衆規測鑑目録	明治元年～明治8年	060
181～206	陸軍省衆規測鑑抜粹 1～37	明治元年～明治8年	061～065
207～211	海軍公文類纂並びに拾遺抄録	明治元年～明治3年	066
212～213	海軍公文類纂抄録	明治5年～明治7年	067
214	海省軍公文類纂索引	明治元年～明治6年	067
215	肥前国浦上耶蘇宗徒処置一件	明治20年	067

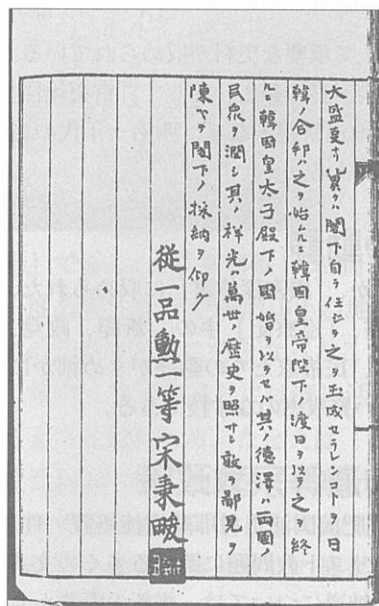
■第Ⅲ期■全18リール

簿冊番号	名称	年次	リール番号
216～217	行政整理関係書類	大正13年～大正15年	068～069
218	行政並びに軍備整理関係書類	昭和6年	069～071
219～230	親任官任免	明治22年～昭和22年	072～078
231～238	内閣 1～7	大正12年～昭和19年	079～084
239	内務省	大正14年～昭和3年	085
240	大蔵省・陸軍省・海軍省・司法省・商工省・逓信省・大東亜省	大正12年～昭和19年	086
241	大蔵省・逓信省・陸軍省・大東亜省・海軍省・内務省・商工省	昭和6年～昭和18年	086
244～247	内閣（企画院上申書類）	昭和15年～昭和18年	087～089
248,250～267	総動員計画関係書類	昭和4年～昭和20年	090～106

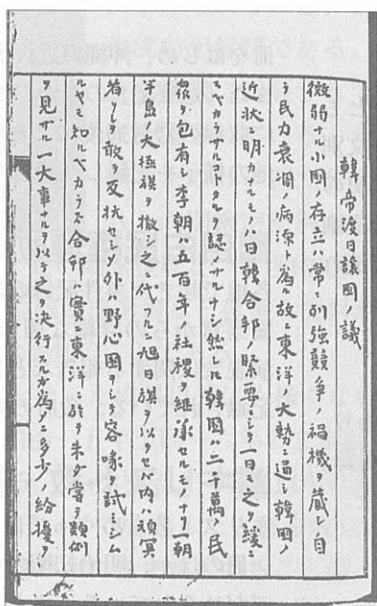
■第Ⅳ期■全31リール

簿冊番号	名称	年次	リール番号
12～15	外務省 1～4	明治15年～明治18年	107～108
16	条約改正一件	明治13年～明治16年	108
18	内務省 2	明治15年～明治16年	109
86～87	北海道事件 1～2	明治2年～明治8年	110
101	使鮮日記	明治8年～明治9年	111
102	朝鮮巡航日誌	明治4年	111
103	朝鮮事件 1	明治元年～明治3年	111
104～106	朝鮮事件 (1)～(3)	明治4年～明治6年	111～112
107	朝鮮事件 付使清之事	明治元年～明治6年	112
108～110	朝鮮尋交始末(上)(中)(下)	明治9年	112
111	朝鮮国詳細	明治9年	112
112～113	朝鮮江華島砲撃始末 1～2	明治8年	113
114～116	朝鮮始末 (1)～(3)	明治6年～明治8年	114
117	朝鮮始末続録	明治9年～明治15年	115
118～125	朝鮮事変始末 1～8	明治15年	115～118
126～129	朝鮮事変始末 1～4	明治17年	119
130～134	仏清事件 1～5	明治15年～明治18年	120～122
138	南満州鉄道に依る露国兵輸送に関する件	大正5年	123
139	韓国併合に関する書類	明治42年～明治43年	124

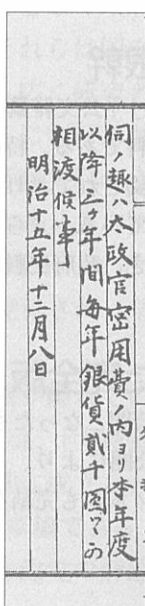
▼図2



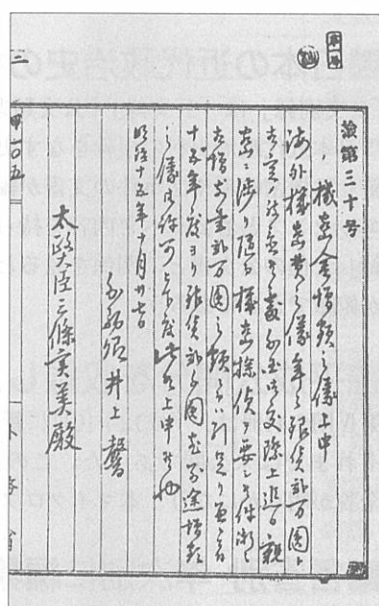
▼図1



▼図4



▼図3

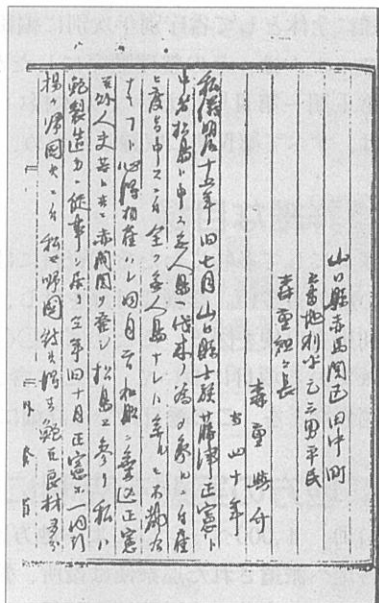


■図1~2「韓国併合に関する書類」 「韓国併合に関する書類」には、宋秉峻により作成された韓国併合前後に解決すべき諸問題に対する意見書が4種ある。主に、韓国皇室の待遇、両班階級の実態分析・分類及び処置をはかる一方、貧民に対する地方税の免除などを提示している。また、地方軍備の増設、警察制度の確立及び下級官吏に韓国人の起用を促し、併合後の独立問題などについて対応策も述べている。

■図5~6「清乱事件 五」には歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保の戦況報告がある。この史料により参謀本部がハノイまで士官を派遣し、詳細な実地報告をさせていることが知られる。報告書は翌年5月まで16通あり、毎回内閣に回覧されていて、当時の政府が清仏戦争に重大な関心をもっていたことが伺える。

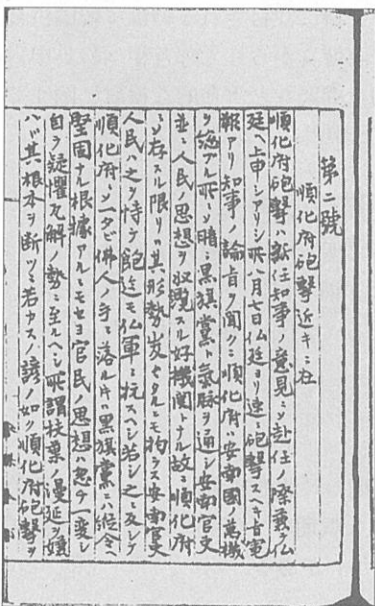
■図3~4 「外務省 一」に「海外機密金増加の件」があり、外務卿井上馨より太政大臣三条実美宛「機密金増額の儀」が明治15年10月27日に上申されている。これに対し「太政官密用費の内より本年度以降三ヶ年間毎年銀貨貳千円」を渡す旨、12月8日に決定している。

■図7~8 「内務省 二」の「朝鮮国蔚陵島出張榎垣内務少書記官復命ノ件」の中にある、鬱陵島（ウルルン島）の地図。榎垣は明治16年10月鬱陵島へ視察のため渡り、島内の朝鮮人と交流し、また、在留していた日本人を連れ帰って山口、兵庫両県へ引き渡す。そのときの日本人からの聞き書きが収録されていて興味深い。この鬱陵島は江戸期、「竹島」「松島」などと呼ばれ元禄年間領有を争ったこともあるが、現在の竹島とは別である。

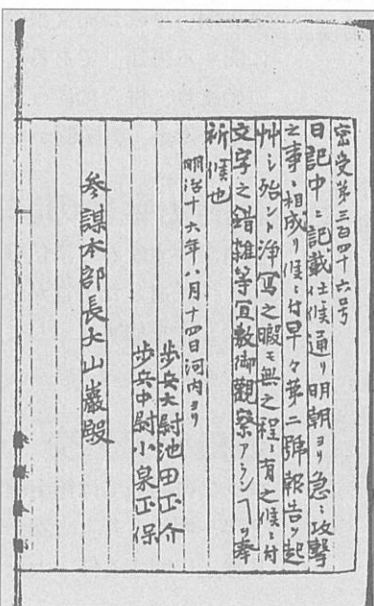


▲図7

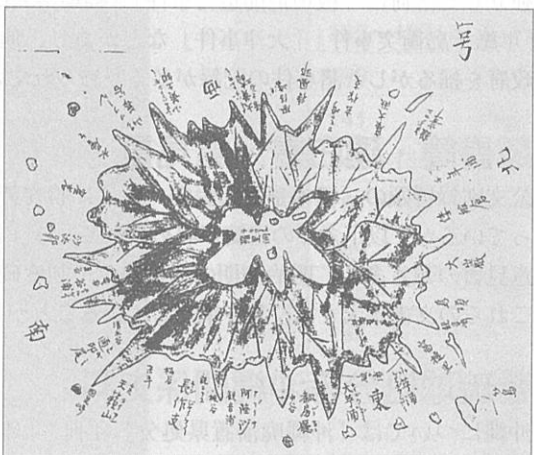
▼図8



▲図6



▲図5



和... 1... 3... 内... 1... 1... 命... 命... 和... 一... 重... 由... 和... 一... 文... 一... 文... 一... 文...

# 極めて機密性の高い公文書を事件別省庁別に編纂する日本近代政治史料群

## 本文書の特徴

### ■日本の近代政治史の根幹

「公文別録」は「公文録」「公文類聚」「公文雑纂」等とともに日本近代政治史料の根幹をなす史料である。特に「公文別録」は機密事項や諸事件の文書が編綴されており、近代史のエッセンスとも云うべき内容を持っている。さらに「公文別録」と他の公文書との関係を見るとき、政府史料編纂の流れが俯瞰できるであろう。

### ■平成公開分を収録した完全版

第Ⅳ期の44冊は、平成12年10月に新公開となったものであり、それまでは未公開であった。この公開により、「公文別録」全貌が明らかになり、本マイクロフィルムも完結を遂げた。

### ■各省別・年次別に編纂

「公文別録」は、現在国立公文書館に整理されている順序を見ると、諸事件や重要問題の簿冊を挟みつつ他の公文書と同様に全体として省庁別年次別に編綴されている。本マイクロフィルムは、その整理順序にしたがって収録した。ただし、第Ⅰ期～第Ⅲ期において欠本扱いになっている平成公開分は、すべて第Ⅳ期に収録したため、この限りではない。

### ■詳細な目録

膨大にして多岐にわたる本資料には、まだよく知られていない部分も多い。詳細な目録を付し、その全貌を明らかにして利用者の便を図る。たとえば「〇〇一件」とのみ目次に記されている項目について、そこに含まれている書簡、報告書、図表などを、この総目録では詳細に記している。

### ■地方の実態を克明に記録

31冊、4,000ページにおよぶ地方巡察使関係の資料を収録。各地へ派遣された巡察使は役所、警察、学校を見て回るばかりでなく市井の生活状態を記録し、新聞、政治結社、政治演説会についても報告している。

### ■近代史上重要な事件調査書

独立した簿冊に「板垣退助遭害事件」「福島県人民暴動事件」「軍艦千島衝突事件」「天津事件」などがあり、他の簿冊にも政府を揺るがした諸事件の記録が多く収められている。

### ■書簡・建白書・意見書

公文別録冒頭の「榎本釜次郎脱艦一件」に勝安芳の書簡が入っているが、以下多くの書簡が収められている。また建白書、意見書の類も多く、明治初期の政策決定や制度確立においてこれらの文書が大きな役割を果たしていることが窺える。

### ■琉球処分等沖縄関係史料

沖縄については「沖縄廃藩置県処分」4冊、「琉球書類」1

冊をはじめ、沖縄の近代史上で重要な史料が収められている。また「巡察記」のなかの尾崎三良の報告、そして「官吏雑件」に収録の岩村通俊による現地視察報告など、明治十年代の当地の様子を記録した諸資料がある。

### ■自由民権運動の動静

各地で起きた事件記録のほか、「機密探偵書」に収められた、警察官からの詳細な報告書、「巡察記」中の、新聞、政党、演説会に関する報告などに、民権家たちの動静がきめ細かに記録されている。政府の強い警戒感のなす技である。

### ■キリスト教・神道等宗教政策

キリスト教をめぐる「肥前国浦上村耶蘇宗徒処置一件」一冊のほか、明治初期のキリスト教問題に関する多くの文書が収められている。また、神道については、維新の際置かれた神祇官が縮小されて行く過程で、これに反対する神官達の建白書が多くみられる。

### ■国家総動員計画関係資料

「公文別録」の棹尾は、20冊に及ぶ「総動員計画関係書類」である。昭和前期の戦時体制を支えた経済の国家統制の全貌を数量データとして残しており、近現代経済史、経済政策の重要史料であるのは言うまでもない。

### ■朝鮮を中心とした対東アジア外交史料

第Ⅳ期収録の平成公開文書は、日本近代初頭の対東アジア外交に関する文書が多い。とくに朝鮮に関しては、維新期の折衝から、江華島事件、壬午軍乱、甲申政変とつづく明治前期の日朝関係を追うことができる。

### ■韓国併合に関する書類

第Ⅳ期、平成公開文書の中で特に注目されるのは「韓国併合に関する書類」である。伊藤博文から桂太郎首相への具申書に始まり、併合に伴う法的な問題など実務的な検討に関する文書のほか、韓国側からの具申書などがある。

### ■清仏戦争の詳細な報告

仏清事件すなわち清仏戦争に関しては5冊の簿冊があり、ハノイへ派遣した士官からの詳細な報告など、日本政府の関心の大きさを如実に示している。大国清国の実力を測っていたのである。

### ■ロシア外交

ロシアに関しては領土確定期の「北海道事件 一～二 明治2年～明治8年」と第一次大戦期の「南満州鉄道に依る露国兵輸送に関する件 大正5年」がある。

■編集：我部政男・広瀬順皓

●全124リール＋別巻 4 揃定価：本体3,084,000円＋税（各期分売不可）

各期の定価

- 第Ⅰ期◆全31リール・別巻① 揃定価：本体744,000円＋税（分売不可） ISBN4-89668-937-2 C3821
- 第Ⅱ期◆全36リール・別巻② 揃定価：本体864,000円＋税（分売不可） ISBN4-89668-938-0 C3821
- 第Ⅲ期◆全39リール・別巻③ 揃定価：本体936,000円＋税（分売不可） ISBN4-89668-939-9 C3821
- 第Ⅳ期◆全18リール・追補別巻 揃定価：本体540,000円＋税（分売不可） ISBN4-8433-0301-1 C3821

マイクロフィルム商品のご案内

パンフレット謹呈いたします。弊社営業部までお気軽にお申し付け下さい。

\*印は、紀伊國屋書店専売商品です。

## 国立公文書館所蔵 岩倉使節団文書 全27リール・別冊1 35mmポジティブロール

〔監修〕田中彰 〔解題〕菅原彬州・山崎渾子 国立公文書館所蔵の岩倉使節団文書をマイクロ化。各国政府との交渉記録、各国滞在中の雑務書類、各省理事官のいわゆる「理事功程」をはじめ、各地で収集した膨大な記録や留守政府とのやりとり、さらには交渉途中で必ず問題にされたキリスト教関係史料等を収録。使節団解明のあらゆる手がかりがここから得られ、使節団の調査・洞察の背後に何があったかをこの文書はつぶさに語ってくれる。近代外交史はもちろん、近代政治史、科学技術史、近代文明史、法制史、教育史等々あらゆる部門に関する好史料で。別冊として「解題」「目録」を付す。 ●揃定価：本体648,000円＋税（分売不可）

## 台湾日日新報 全341リール・別冊4\* 35mmポジティブロール

明治31年、台湾総督府児玉源太郎の肝いりで「台湾新報」と「台湾日報」を合併して創刊。経営難のため、台湾総督府が出資をしてからは政府当局の機関紙となり、昭和19年廃刊まで日刊紙として刊行された。多くの著名な日本人学者を招致して編集にあたり、法令規則、時事、社会問題、さらには生活形態、台湾の歴史など多彩な内容。 ●揃定価：本体4,966,021円＋税

## 台湾民報 全10リール\* 35mmポジティブロール

「台湾民報」は明治33年から37年まで台湾で発行された日本語日刊紙。在野の新聞として、民衆の立場から官吏の腐敗や綱紀の緩み等を厳しく糾弾した。明治後期の台湾統合、また総督府の動向を知るには絶好の史料。 ●揃定価：本体290,000円＋税（分売不可）

## 東京都立大学附属図書館所蔵 穂積文庫貴重書集成\*

全47リール・別冊1 35mmポジティブロール

〔監修〕水林 彪 明治期最大の法学者穂積陳重とその長男穂積重遠の蔵書から、西欧の法学書等、日本の近代法成立に係わる重要な稀覯本180冊を厳選した文献集成。 ●揃定価：本体1,410,000円＋税（分売不可）

## 陸羯南 日本 全81リール 35mmポジティブロール

〔監修〕北根 豊 陸羯南は、政府の文明開化政策が極端な欧化に走るのを矯正するため、独立新聞としての性格を鮮明にして「日本」を創刊。「国民主義」を標榜、最後まで時の政府に抵抗した我が国唯一の政論新聞全巻をマイクロ化。 ●揃定価：本体1,300,000円＋税（分売不可）



〒101-0047  
東京都千代田区内神田2-7-6  
TEL.03 (5296) 0491  
FAX.03 (5296) 0493  
http://www.yumani.co.jp/  
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方 日本近代史、政治史、外交史、法政史、経済史、軍事史、地方史、および、近代アジア史、日朝・日中・日露関係史等の研究者、関係研究機関ほか。

ゆまに書房 Tel.03 (5296) 0491 / Fax.03 (5296) 0493		年	月	日
ご注文書	公文別録	第Ⅰ期	揃定価：本体744,000円＋税（分売不可）	ISBN4-89668-937-2
		第Ⅱ期	揃定価：本体864,000円＋税（分売不可）	ISBN4-89668-938-0
		第Ⅲ期	揃定価：本体936,000円＋税（分売不可）	ISBN4-89668-939-9
		第Ⅳ期	揃定価：本体540,000円＋税（分売不可）	ISBN4-8433-0301-1
お名前				
住所				
TEL	( )			
		取扱店		